令和5年度版『ひろがる言葉 小学国語　三上』年間指導計画・評価計画

船二小　2023年２月

単元・教材のねらいと，「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から，あてはまるものを表示。重点指導事項には，◎を付した。
△知識・技能　◇話すこと・聞くこと　■書くこと　□読むこと　☆他教科との関連

〔第3学年及び第4学年〕目標（「学びに向かう力，人間性等」の単元目標）
(1)日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
(2)筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをまとめることができるよう にする。
(3)言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
4	ー	三年生で学ぶこと							
4	4 (話す聞く2)	ことばに親しもう	◇□声に出して読んだり，共通点や相違点に気をつけて話したり聞いたりすることを楽しみ，国語学習への意欲をもつ。						
4	2 (話す聞く2)	「じこしょうかいビンゴゲーム」をしよう	◇「自己紹介ビンゴゲーム」をもとに，互いの共通点や相違点に着目しながら興味をもって話したり聞いたりする。 △言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。　⇒知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒◎知技(1)イ ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒◎思判表Ａ(1)ア ◇相手を意識して，話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら，話の構成を考えること。　⇒思判表Ａ(1)イ ◇話の中心が伝わるように，場面を意識して言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。⇒思判表Ａ(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えをもつこと。　⇒思判表Ａ(1)エ ◇質問するなどして情報を集めたり，それらを発表したりする活動。　⇒思判表Ａ(2)イ	1 2	○「自己紹介ビンゴゲーム」を通して，互いを知り合うという学習の見通しをもつ。 １．カードを書く。 （1）好きなものや得意なことをカードのます目に書く。 ２．カードを使って，ビンゴゲームをする。 （1）グループになり，カードに書いたことを１ますずつ発表し合い，同じ場合は丸を付ける。列がそろったら「ビンゴ」と言う。 （2）同じものが好き，同じものが得意という人どうしで集まり交流する。 （3）グループを変えて，ビンゴゲームをする。 ３．別の話題でビンゴゲームをする。 （4）話題を決めてカードに書く。 （5）カードを使ってビンゴゲームをする。 （6）友達が考えた別の言葉にはどんなものがあるか確かめ合い，交流する。 ○学習を振り返る。	○ビンゴゲームを楽しみながら自己紹介ができるように，はじめは書く内容を限定する。例えば「好きな季節・動物・教科・スポーツ・給食」の5項目は必ず入れる等の工夫をするとビンゴが成立しやすい。 ○ビンゴになることにより，共通点に着目しやすい。共通点を中心に交流させるとともに，相違点を取り上げて紹介し合うようにする。 ○話題は話し合って設定する。体験から個人のエピソードを紹介することができるような話題を選ぶ。	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話している。 （〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選んでいる。 （〔思考力，判断力，表現力等〕Ａア） 【態度】進んで日常生活の中から話題を決め，学習の見通しをもって情報を集め，自身のことを紹介し合おうとしている。		伝える／自己紹介／カード ／ 発表
	2	かえるのぴょん	□言葉との新鮮な出会いをとおして，そのリズムや響きを味わい，音読を楽しむ。 △文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。　⇒◎知技(1)ク △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。　⇒知技(3)オ □登場人物の行動や気持ちなどについて，叙述を基に捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ	3 4	４．各連で，ぞれぞれをどのように跳び越えたのかを考えながら，「ぴょん」の読み方を工夫して音読する。 ５．グループなどに分かれて，動作化やせりふなどを工夫して音読する。	○「ぴょん」が跳び越える対象が，物理的に大きくなっていき，四連では「きょう」「あした」と抽象化されていくところが，現実にはありえないできごととして示されている。それが「ぴょん」の回数に対応していることに気づかせる。 ○なぜ「とぶ」のか，「とびこえて」どうするのかなどを問うより，この荒唐無稽の世界を楽しませたい。 ○どのように「とびこえ」たのか，「とびこえ」ている姿や様子などをイメージしながら，音読を工夫させる。 ○目線を工夫したり，ぴょんの動作やせりふなどを考えてグループで演じながら音読させたりする。	◎【知技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） 【態度】進んで登場人物の気持ちの変化について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し，学習課題に沿って工夫して音読しようとしている。		音読

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
4	9 （書く2）	一　ばめんのつながりに気をつけて読もう	□登場人物の行動や気持ちを思い浮かべながら読み，物語の続きを予想する。						
		白い花びら	△様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒◎知技(1)カ △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。　⇒◎知技(3)オ ■気に入った表現について，書こうとしたことが明確になっているかなどについて，文章の内容や表現のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ □登場人物の行動や気持ちなどについて，叙述を基に捉えること。　⇒◎思判表Ｃ(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒思判表Ｃ(1)カ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして，友達と互いに理解し，信頼し，助け合うことについての考え方を深める。	1 2 3〜6 7 8・9	○単元とびらを読んで，学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．全文を読み，初発の感想を書く。 （1）登場人物の人数や場面の数を確かめ，できごとの全体を捉える。 （2）文章を読んで感じたことや考えたことを書いて紹介し合う。 **考えよう** ２．場面ごとに，ゆうた・かずき・女の子の行動や気持ちを読む。 （1）ゆうたとかずきは，どのような子どもか。行動や話したことを比べながら読む。 （2）女の子について，不思議だと思うところを見つけて紹介し合う。 （3）(2)でまとめたことをもとに，女の子に対するゆうたの気持ちの変化を捉える。 **深めよう** ３．ゆうたは女の子にまた会えると思うか，自分の考えをもとに話し合う。 ・２の(3)でまとめた内容をもとに考える。 **広げよう** ４．気に入った言葉や表現を紹介し合う。 ・なぜその表現が気に入ったのか，理由を説明する。 ○学習を振り返る ・ゆうたの気持ちの移り変わりを想像することができたか。 ・気に入った言葉や表現を見つけて紹介できたか。	○登場人物の様子を想像して読み，場面の移り変わりに応じて人物の気持ちがどのように変わっていくのかを考えながら読むという単元の見通しもたせる。「場面」については，「ここが大事」も参考に確認する。 ○ゆうたとかずきについて，同じ物事に対して二人が異なった対応をした場面を取り上げるようにする。 ○女の子が登場する場面の，様子や会話文の内容を手がかりに考えさせる。 ○女の子に対するゆうたの気持ちの移り変わりがわかるように，ノートに表などのかたちでまとめて話し合うようにする。 p.30の言葉については，３〜６時の学習活動の中でふれるようにする。 ○これまでに読んできたことをもとに，女の子の不思議な様子，ゆうたの気持ちの移り変わりなどを根拠・手がかりに，各自で予想させる。 ○気に入った言葉や表現については，p.30の「ことば」の学習内容も手がかりになる。 ○振り返りは，今までのノートの記録などを見直し，自分の言葉で表現させるようにする。	◎【知技】主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【知技】幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)オ） 【思判表】「書くこと」において，書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂオ） ◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の行動や気持ちなどについて，叙述を基に捉えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃイ） ◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） 【態度】進んで登場人物の気持ちの変化について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し，学習の見通しをもって考えたことを友達と紹介し合おうとしている。	ばめんに気をつけて読む	文／漢字／主人公／作家／物語／場面／登場人物／性格／したこと／比べる／気持ち／発表／言葉／理由／説明／様子／移り変わり／お話

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
5	3 （書く3）	「発見ノート」を作ろう	■毎日の生活の中での発見や不思議に思ったことなどを「発見ノート」に書く。 △言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。　⇒◎知技(1)ア △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア ☆理科：観察ノートへの応用を図ることができる。	1・2 3	○p. 32を読んで「発見ノート」に書く内容を理解し，学習の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう（重点）** １．p. 33の「発見ノート」を読み，具体的な書き方を理解し，身のまわりを取材して発見したことを「発見ノート」に書く。 **組み立てよう** ２．集めたものを並べ直す。 **書こう・読み返そう** ３．書いた内容を確認し，一枚を完成させたら，同じ要領で複数のノートを作る。 **伝え合おう** ４．友達とノートを交換し，お互いのノートを読み合って気づいたことなどを話し合う。 ○学習を振り返る。	○毎日の生活の中で，何かを発見したり，不思議だなと思ったことを書く。 ○いつ，どこで発見したことか。 ○なぜ，新発見だと思ったのか。 ○発見にまつわる疑問は何か。 ○「見出し」をつける。 ○《くわしい内容》 ＊はてな　どうしてだろう　ふしぎだな ＊予想したこと～もしかして ＊なるほど　わかった　そうなんだ ＊思ったこと ○ここで作った発見ノートは，適宜，書き続けていくようにしたい。このあとで学習する第四単元『クラスの「生き物ブック」を作ろう』や，下巻の創作詩の教材『はっとしたことを詩に書こう』，同じく下巻第五単元『強く心にのこっていることを』の話題，題材を選ぶ際に活用できるように設定している。自分の「発見ノート」を見返す楽しさを味わわせたい。 ○「いつ」「どこで」や「発見だと思った理由」「不思議だと思ったところ」などがわかりやすく書けているかなどを確認させる。 ○それぞれの内容が項目ごとに書かれて，わかりやすくなっているかなども確認させる。	◎【知技】言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） 【態度】積極的に伝えたいことを明確にし，学習の見通しをもって「発見ノート」を作ろうとしている。		発見ノート／見出し／漢字／理由／話題
5	2	国語辞典の引き方	△国語辞典の引き方を理解し，辞典を活用する。 △様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ	1 2	○学習内容を理解し，日常化への見通しをもつ。 １．教材文を読み，国語辞典の引き方を知る。 ２．見出し語には出ていない言葉をどう調べればいいか見当をつける。 ３．二つの意味を合わせて言葉を理解することを確認する。 ４．辞典によって，並び方のきまりなどが違うことを知り，自分が使う辞典のきまりに従って引く。 ５．並び方のきまりに気をつけてp. 37の下段の語句などを国語辞典で調べて，発表し合う。 ○学習を振り返る。	○教材冒頭の会話文によって，日常の言語生活との関連を意識づける。 ○言葉の意味を知るには，国語辞典を活用するとよいことに気づかせ，国語辞典に興味をもたせる。 ○教材文にそって国語辞典の引き方を確認させ，理解をさせる。国語辞典を一人一人の手もとに用意させる。 ○複合語の場合はどのように引けば意味を理解できるのか，そのてだてを確認するようにする。 ○一度では該当する語を見つけられないことが多いので，見当をつけることの大切さに気づかせたい。 ○言葉の並び方は辞典によって違うことがあるので，辞典の「使い方」のページにあたるといいことを知らせる。 ○実際に教科書下段の言葉が載っている順を確認し，その辞典の並び方のきまりを確認させるとよい。	◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） 【態度】積極的に辞書や事典の使い方を理解し，学習課題に沿って国語辞典を活用しようとしている。	動きを表す言葉／国語辞典／見出し語／言葉／漢字／様子を表す言葉／五十音順／清音／濁音／半濁音／会話／組み立て／構成／のばす音／促音／長音／拗音／説明	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
5	6 （話す聞く6）	二　すじみちを立てて発表しよう	◇中心点をはっきりさせたり，理由を添えたりして自分の宝物を紹介し，友達の意見や感想をもとによりよい発表にする。						
		たからものをしょうかいしよう	△言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。　⇒知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒知技(1)イ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。　⇒◎思判表Ａ(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。⇒◎思判表Ａ(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えを持つこと。　⇒思判表Ａ(1)エ ◇説明や報告など調べたことを話したり，それらを聞いたりする活動。　⇒思判表Ａ(2)ア	1	○単元名やリード文を読み，学習の見通しをもつ。 （1）全文を読んで，森本さんの発表が変わったことに気づき，学習の見通しをもって「学習の進め方」をもとに学習計画を立てる。 **決めよう・集めよう** １．紹介する宝物を選ぶ。 （1）自分が紹介したい宝物について考えを広げる。 （イメージマップなど）	○中心点をはっきりさせたり，理由を添えたりして筋道を立てて紹介することや，友達の意見や感想をもとにして，よりよい発表にしていく学習のねらいをつかませ，学習の流れを意識づける。 ○単なる内容の紹介ではなく，内容や話し方について，友達とアドバイスし合ったよりよく伝えるための学習であることを理解させる。 ○イメージマップなどを使って自分の宝物が想起できるようにする。	◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるように話の構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａイ）	みんなの前で発表する	発表メモ／発表／メモ／組み立て／感想／理由／意見／中／筋道／終わり／聞き手
				2・3	**組み立てよう（重点）** ２．伝えたいことが伝わるように，組み立てを考える。 （1）自分の紹介する宝物を決め，発表メモを作る。 （2）p.39の森本さんが最初に考えたスピーチを読んで，伝えたいことは何だったのか話し合い，発表メモと比べる。 （3）グループで発表する前に，p.40・41の森本さんが作り直したメモとスピーチを読み，友達にもらった意見や感想と照応しながら，改善された点について話し合う。 （4）話の中心や理由が伝わるように声の抑揚や強弱などに注意し，自分の宝物について紹介したり意見や感想を述べ合ったりして発表メモを修正する。	○自分が紹介する宝物を決めさせ，いちばん伝えたいことやその説明の仕方，理由をメモではっきりさせるようにする。 ○「3」の森本さんのスピーチでよくなったところをメモと照応させて見つけ合い，挿絵の友達の意見や感想とつながっていることを確かめる。スピーチをよりよくするために互いに助言し合うという目あてをもたせ，聞き合うようにさせる。 ○グループでスピーチをしたり意見・感想を述べ合ったりして，最初のメモを直し，中心や理由がさらにはっきりするよう見直しをさせる。	◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａウ） 【態度】粘り強く話の構成を考え，今までの学習を生かして自分の宝物を紹介しようとしている。		
				4・5	**話そう・聞こう（重点）** ３．クラスで発表する。 （1）クラスで発表し合う。可能であれば他のクラスの友達・保護者・兄弟学級の人など，相手を選んで発表する。	○直したメモをもとに全員の前で発表し合い，互いに感想や意見を交流させる。 ○学年の他のクラスの児童と紹介し合ったり，学校公開などを活用して保護者や地域の人に紹介する場を設けるようにする。			
				6	**伝え合おう** ４．感想を伝え合う。 （1）宝物を紹介した感想を聞き合う。 ○大事なことをまとめ，学習を振り返る。	○相手が変わると，呼びかけの言葉が変わることに気づかせ，相手に応じて「始め・終わり」の表現を工夫して話すことで，日常生活に生かすことができるようにする。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
5	2 （話す聞く 2）	聞いてさがそう	◇大事なことは何かを考えて，必要なことをメモに取ったり，質問したりしながら聞く。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒知技(1)イ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ ◇目的を意識して，日常生活において伝えたいことなどから話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，話題に合うことがらを選ぶこと。　⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手を意識して，話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら，話の構成を考えること。　⇒思判表Ａ(1)イ ◇話の中心が伝わるように，場面を意識して言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。⇒思判表Ａ(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えをもつこと。　⇒◎思判表Ａ(1)エ ◇質問するなどして情報を集めたり，それらを発表したりする活動。　⇒思判表Ａ(2)イ	1 2	○リード文を読み，大事なことをメモしながら聞くという学習の見通しをもつ。 １．メモを取りながら話を聞き，どこに「りす公園」があるのかを探す。 （1）春田さんの話をメモしながら聞く。りす公園への道順を確認する。 （2）メモを見せ合い，メモの取り方について話し合う。 ２．「聞いて探そうクイズ」をする。 （1）公園の絵の中から道順の説明を聞いて場所を当てるクイズを考える。 ・スタートとゴールを決めて，その道順の目印になる建物や方向を表す言葉を選びメモに書く。 （2）「聞いて探そうクイズ」を出し合う。 ①問題を出す人は，スタートと道順を説明してゴールはどこかを尋ねる。 ②答える人は地図を見ずにメモを取りながら聞く。 ③聞き終わったらメモを手がかりにして，質問しながら絵の中のゴールを答える。 ○学習を振り返る。	○絵に描かれているものを探す活動から，正確に聞き取る必然性をもたせる。 ○教科書を見せずに，教師が「りす公園」までの説明を読みメモを取らせる活動をしてから，教科書の絵を見るようにする。東野さんのメモと自分のメモを比較して，メモを取りながら話を聞くために「ここが大事」を確認する。 ○自分が工夫したメモの取り方を試すために，教師はいくつかの道案内を話す。場所や方向等大事な言葉を確認しながら，よりよいメモについて考えさせる。 ○道順を説明するために場所や方向の言葉をメモに書くようにする。手がかりとなる場所の説明は，建物の色・形・看板・植木やペットなどの特徴等の視覚的な情報を入れるように工夫させたい。 ○p.45の質問例を読み，「詳しく知りたいとき・よくわからないとき・確かめたいとき」に質問する方法を確認する。 ○ペアやグループで問題を出し合い，メモを手がかりにゴールが見つけられるようにする。	◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａエ） 【態度】進んで必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，学習の見通しをもって情報を集めようとしている。	メモを取りながら話を聞く	メモ／漢字／質問

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
5	2	漢字の広場　① 漢字学習ノート	△新しく学ぶ漢字や既習の漢字を使って漢字学習ノートを作る。 △漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒知技(1)ウ △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ △漢字が，へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。　⇒知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．「漢字学習ノート」にまとめる手順を理解する。 ２．p.46を参考にして，既習漢字の中の一字について，読み方・意味・使い方などを調べ，短文を考えて，「漢字学習ノート」に書き，まとめる。 ３．「漢字学習ノート」に書いた使い方と短文をそれぞれ発表し合う。	○漢字ノートのまとめ方を理解するという学習課題を確かめ，今後の学習に生かしていくよう意識づける。 ○p.46の図を見て，「漢字学習ノート」にどのような事柄を書くのか考える。 ○新出漢字の学習に生かすためのノートであることをおさえる。 ○国語ノートとは別に，漢字学習用として専用のノートを準備するとよい。 ○「動」を例にノートをまとめる手順を丁寧に確認する。 ○音訓ともに，声に出して読み方を確認できるようにする。 ○組み立てによって分けることができない単体の漢字は，筆順を書くことでもよい。 ○筆順を含め，正しく書くことができるようにする。 ○意味は，国語辞典の漢字項目などを参考にすることが考えられるが，主要なものにしぼる。 ○言葉集めでは，積極的に発表できるようにする。 ○言葉集め，短文作りでは，発表，話し合いの場面を十分にとる。 ○友達から学んだことも書き加えるとよい。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い，学習の見通しをもって「漢字学習ノート」を作ろうとしている。		漢字学習ノート／説明／漢字／漢字の読み方／漢字を使った言葉／話し合う／言葉／文／発表
	2 （書く2）	漢字の広場　① 二年生で学んだ漢字　①	△絵を見て想像したことをもとに，２年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	3・4	５．教科書の絵を見て，描かれている様子について説明する。 ６．「木の下で，おべんとうを食べている人がいます。」を参考にして絵の中の様子を文に書く。 ７．「木の下で，おべんとうを食べている人がいます。」の続きの文を書く。 ８．書いた文を見直し，適切な表現に替えたり，まちがいを正したりし，発表し合う。 ○学習を振り返る。	○漢字の使い方や表記などを理解できるようにし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○絵の中にある２年生の時に学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○絵の中の言葉を使って，絵に描かれている様子や物，人間がしていることなどを説明する文を書く。 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○「木の下で，おべんとうを食べている人がいます。」の続きの文の例。 　「それから，マイクを持って歌っている男の子もいます。」 ○続きの文を書くために，「また」「それから」「でも」「なぜなら」「そのわけは」などの接続語を提示してもよい。 ○敬体と常体が混在している場合は，読み直して，どちらかに統一するなど書き表し方を工夫するようはたらきかける。 ○表現を改めたり，書きまちがいなどを正したりして，書いた文を発表する。 ○学習する漢字についてノートを作るなどして漢字や言葉に対する意識を高めたり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵を説明する文を書こうとしている。		漢字／言葉／様子

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
5～ 6	12 （書く2）	三　だんらくの要点をつかもう	□段落の要点に気をつけて読み，わかったことや大事なことをまとめる。						
5	2	うめぼしのはたらき	△主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ □段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えること。　⇒◎思判表Ｃ(1)ア □目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)ウ □記録や報告などの文章を読み，文章の一部を引用して，分かったことや考えたことを説明したり，意見を述べたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)ア	1 2	1．脚注を読み，問いの文と答えの文を見つける。 2．脚注を読み，「中心となる文」と「それを説明する文」を見つける。 (1) ③段落にサイドラインを引く。 (2) ④段落，⑤段落にサイドラインを引く。 (3) 小集団で交流し，サイドラインの位置を確かめる。 3．学習を振り返る。 4．前時にサイドラインを引いた部分を短くまとめる。 (1) サイドラインを引いた部分を音読する。 (2) 短くまとめた文を考え，ノートに書く。 (3) 友達どうしで交流する。 5．p.61「学習のてびき」を読み，要点をまとめることについて理解する。 (1) 「要点」という言葉の意味を知り，その意味をノートにまとめる。 (2) 友達どうしで交流する。 6．学習を振り返る。	○文末に「～でしょう。」と読み手に投げかけをする文は，問いの文であることが多い点をおさえる。 ○②段落，③段落は全体で確認をしながら行い，児童の様子を見て④段落，⑤段落を児童に取り組ませるとよいだろう。 ○③～⑤段落では，それぞれ最初の一文が「～はたらきをします」で書かれていることをおさえる。 ○短くまとめるためには，「です，ます」調（敬体）で書かれた文を「だ，である」調（常体）に直すことや，重複している表現は省略することで，文が短くなることをおさえる。 ○年間の指導を見通し，クラス掲示などにして残すとよいだろう。	◎【知技】主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【思判表】「読むこと」において，段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃア） ◎【思判表】「読むこと」において，目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃウ） 【態度】粘り強く，目的を意識して，中心となる語や文を見付け，学習課題に沿って要点をまとめようとしている。		漢字

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
5〜 6	10 （書く2）	めだか	□段落の要点に気をつけて読み，わかったことや大事なことをまとめる。 △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。　⇒知技(3)オ ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。 ⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ □段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えること。　⇒◎思判表Ｃ(1)ア □目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒思判表Ｃ(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア □記録や報告などの文章を読み，文章の一部を引用して，分かったことや考えたことを説明したり，意見を述べたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)ア □学校図書館などを利用し，事典や図鑑などから情報を得て，分かったことなどをまとめて説明する活動。　⇒思判表Ｃ(2)ウ	3	○単元名とリード文を読み，直前の教材で学習したことを生かしながら，要点に気をつけて読み，大事なことをまとめるという学習の見通しをもつ。 **確かめよう** ７．わかったことや，浮かんだ疑問を初発の感想として書く。 （1）文章を通して読み，めだかのどのようなことを説明している文章なのかを話し合う。 （2）(1)をもとに，文章を大きく二つのまとまりに分ける。	○段落の要点に気をつけながら文章を読み，わかったことや大事なことを文章にまとめるという学習を意識づける。 ○「てきから身を守っているだけではありません。」という部分に着目し，要点とは，一部分を取り出せばよいのではなく，段落の大事な内容をつかむことが大切だ，とおさえる。 ○初発の感想を書く際は，実態に応じ，150〜200字程度の分量とするとよいだろう。 ○「てきから身を守る方法」「めだかの体のつくり」を二つの意味段落の小見出しにするとよいだろう。	◎【知技】主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） 【思判表】「書くこと」において，書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂイ）	だんらくの「要点」をつかむ	文／漢字／段落／要点／文章／説明／話し合う／比べる／言葉／様子／訳
				4・5	**考えよう** ８．p.58・59のてびきに書かれた表をもとに，段落の要点を書く。 （1）めだかは，敵からどのようにして身を守っているのか。 （2）友達どうしで交流し，各段落の要点を確認する。 （3）学習を振り返る。	○①段落と②③段落を丁寧に扱いたい。特に歌は，③段落だけでなく，最終段落とも関連するため，めだかの印象をしっかりとおさえる。 ○③段落では，写真を活用しながら，めだかが多くの敵にねらわれていることを確認する。 ○④段落に(1)の学習活動に関連する問いが提示される。「第一に」「第二に」などの言葉に着目させ，四つの身の守り方があることをおさえたうえで，一つ一つの守り方を確かめる。 ○p.58・59の例のように身の守り方を表にまとめていく。守り方と，その守り方のよさ（利点）を箇条書きにするとともに，各段落の要点をつかむ。教材文をまる写しして書いてしまう児童がいるので，例を示して簡潔にまとめるよう指導する。	◎【思判表】「読むこと」において，段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃア） ◎【思判表】「読むこと」において，目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃウ） 【態度】粘り強く，目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約し，学習課題に沿って分かったことや大事なことをまとめようとしている。		
				6〜8	９．段落の要点をまとめる。 （1）自然の厳しさに耐えるためのめだかの体の特長を，「めだかはかせ」になったつもりで他の魚と比べながら箇条書きにする。 （2）友達どうしで交流し，各段落の要点を確認する。 （3）学習を振り返る。	○⑨段落では，身の守り方をまとめたうえで次の話題が提示される。⑩〜⑫段落を短くまとめるとよいだろう。 ○⑩段落の「水が少なくても生きられる」，⑪段落の「水温が上がってもたえられる」という特長を他の魚と比べながらまとめる。 ○⑫段落の「真水と海水がまざるところでも生きられる」という特長を他の魚と比べながらまとめる。 ○(1)・(2)の学習活動はどちらも，まず児童一人一人が本文に線を引くなどして，該当する箇所を見つけたうえで，グループや全体で交流し，ノートにまとめさせる。 ○「ここが大事」をもとに，要点という用語をおさえる。 ○４〜８時の中で，要点をつかむ活動と並行して「てびき」の言葉設問に取り組ませる。			
				9・10	**深めよう** 10．「めだか」についてわかったことについてまとめる。 （1）表に整理したことをもとに，p.59の項目を参考にわかったことを書く。 （2）本を読んでわかったことがあったら，つけたしをする。	○「めだかについて知っていたこと→文章を読んで知ったこと」「めだかの身の守り方や体の特長（他の魚より優れているところ）→思ったことや考えたこと」という筋道を提示してもよい。 ○「２」の学習活動で文章の大事なことや文章からわかったことをおさえているので，学んだことを生かし，できるだけ詳しく書かせたい。 ○わからないところは，実態に応じて，別の資料を使ってさらに調べてさせてもよい。 ○読み合う際には，文章の大事なことや文章からわかったことが正しく書かれているか，それに対して思ったことや考えたことがわかりやすく書かれているか，などの視点をもたせる。			
				11・12	**広げよう** 11．書いた文章を友達と読み合う。 （1）友達と交換し，書いた文章を読む。 （2）感想を一言書いたり，話したりして伝える。 ○学習全体を振り返る。	○各段落の要点をまとめる際，特に自分が興味をもてたところを中心に書かせるとよいだろう。目的を意識して文章の内容を短くまとめることは，今後，要約文を書かせる際に重要な観点となる。文章の分量などを実態に応じて指定するとよいだろう。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
6	4 （書く1）	俳句に親しむ	△俳句を声に出して読み，言葉のリズムにふれる。 △易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして，言葉の響きやリズムに親しむこと。　⇒◎知技(3)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ ☆道徳：我が国や郷土の伝統と文化を大切にする。 ☆図書館活用：俳句への関心を広げる。	1 2・3 4	○p.62を読んで，学習のめあてをつかむ。 １．俳句の特徴を知る。 ２．それぞれの句を，解説を読みながら，季節の様子を想像して音読する。 ３．気に入った俳句を覚えて暗唱し，発表する。 ４．想像した句の情景や，その句を気に入った理由などをカードに書いて，発表し合う。 ○学習を振り返る。	○俳句の特徴をつかみ，俳句を声に出して読み，言葉のリズムを感じたり，情景をイメージしたりすることをおさえる。 ○p.62の児童の俳句をもとに，音数・季語・季節などを確かめる。 ○写真などを手がかりにしながら，どんな情景なのかを頭の中に思い浮かべさせる。 ○リズムや響きを感じ取ることを大事にしたい。 ○音読しての感想を，自由に言わせてもよい。 ○リズムを意識しながら，何度も声に出して読んで覚えさせる。 ○暗唱を家庭学習としてもよい。 ○想像したことや理由が明確に述べられるよう促す。 ○他者に伝わる（共感してもらえる）ようになっているかどうか，確かめる。	◎【知技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして，言葉の響きやリズムに親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】進んで易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどし，学習の見通しをもって言葉の響きやリズムに親しもうとしている。		季語／俳句／場面／様子／作者／理由／言葉

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
6～ 7	13 （書く10）	四　しりょうを集めて活用しよう	□■知りたい情報を見つけるための方法を知り，それをもとに資料を集め，活用する。						
6	3	本で調べよう	△本の仕組みやつくりを知り，それをもとに知りたいことに応じた本を探して読み，必要な事柄を「読書カード」に記録する。 △知りたい情報を見つけるための方法を知り，それをもとに目的に応じた本を探して読み，必要な事柄を「読書カード」に記録する。 △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。　⇒知技(3)オ □目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)ウ □文章などを読んで理解したことに基づいて，感想や考えを持つこと。　⇒思判表Ｃ(1)オ □記録や報告などの文章を読み，文章の一部を引用して，分かったことや考えたことを説明したり，意見を述べたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)ア □学校図書館などを利用し，事典や図鑑などから情報を得て，分かったことなどをまとめて説明する活動。　⇒思判表Ｃ(2)ウ ☆理科：図鑑の活用	1	○知りたいことを見つけるための方法を使って，目的に応じた本を探して読み，「読書カード」に記録するという学習内容をつかみ，学習の見通しをもつ。 １．図鑑の構成と使い方を知る。 （1）調べ学習の経験を想起し，自分の知りたいことが載っている本を探す方法について発表する。 （2）目次・索引の役割や違いを知る。 （3）目次・索引を使って図鑑を引く。	○目的に応じた本を探して読み，調べたり，カードに記録したりしていくよう意識づける。 ○知りたい情報にすぐたどり着ける方法として，目次や索引があることに気づかせる。また，手にした本に知りたい情報が載っているかどうかの判断ができることにも気づかせる。 ○目次・索引の役割や違いを考えさせ，目的に応じて使い分けができるようにさせる。 ○索引には．載っているページが複数あるもの，太字になっているもの，見返しなどのページ以外に情報が書かれているものなどがある。現物の図鑑を示しながら，確認する。各学校図書館の所蔵している図鑑の凡例を確認しておく。 ○「～のなかまを５つ調べる」「～の体長や餌を調べる」などの課題に取り組ませ，目次・索引の使い方に慣れさせたい。	◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【思判表】「読むこと」において，目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃウ） 【態度】積極的に，目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約し，学習課題に沿って分かったことを説明しようとしている。		資料／司書／漢字／索引／目次／言葉／五十音順／後書き／奥付／前書き／記録／情報／題名／帯
				2	２．調べたいことを決め，本を探す。 （1）前書き・後書きが本を探すときの手がかりになることを知る。 （2）奥付について知り，調べた本についての記録の仕方を知る。 （3）調べたいことを決め，目次・索引，前書きなどの手がかりをもとに本を探して読む。	○図鑑で調べた後に，さらに詳しく調べるための本を探させる。そのとき，前書きや後書きも役に立つ手がかりがあることに気づかせる。 ○前書きや後書きに本の内容や編集の意図が記されている本を探しておき，例示する。 ○調べるために使った本は，出典元や引用元を明らかにするために，参考文献として記録する必要があることを知らせる。３の活動で「読書カード」にも記録させるので丁寧に扱う。 ○調べたいことは，「～か」のような問いの形で具体的に書かせ，調べることを明確にさせる。			
				3	３．本を読んでわかったことや，本に関する情報などを「読書カード」に記録し，友達と読み合う。 （1）本に関する情報，調べたいこと，読んでわかったことや感想などを「読書カード」に記録する。 （2）「読書カード」を友達と読み合い，興味をもった本を探して読む。	○p.71の「読書カード」を例に，調べた本についての情報，所蔵場所，調べたいこと，わかったこと，感想などを書くようにさせる。児童の実態に合わせ，「読書カード」の体裁や大きさなどは工夫してもよい。 ○友達の「読書カード」から興味をもった本を読む時間を設け，読書の幅を広げさせたい。 ○p.71にある「本のつくり」を知る時間を設け，その後，折にふれ，その用語を使うようにする。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
6～ 7	10 （書く10）	クラスの「生き物ブック」を作ろう	■図や資料を使って，生き物の特徴を比べて書く。 △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒◎知技(1)カ △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ア ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒◎思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ ■文章の間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。　⇒思判表Ｂ(1)エ ■感想や意見を伝え合い，書こうとしたことが明確になっているかなどについて，文章の内容や表現のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア ☆理科：観察記録文の書き方に活用することができる。	4 5・6 7・8 9・10 11・12 13	○「学習の進め方」を読んで，見通しをもつ。 **決めよう・集めよう（重点）** ４．生き物を選び，調べる。 （1）調べたい生き物の特徴を探す。 （2）選んだ生き物と，比べてみたい生き物について調べ，メモに書く。 **組み立てよう（重点）** ５．組み立て表を作る。 （1）書いたメモを並べる。 （2）組み立て表を読み合い，見直す。 **書こう** ６．文章を書く。 **読み返そう** ７．文章を読み返す。 **伝え合おう** ８．友達と読み合う。 ○今回の学習で学んだことを学習感想としてまとめる。	○生き物の特徴の例 　大きさ，色，口，羽，幼虫，さなぎ，餌 ○生き物の特徴は一つではないから，いろいろな特徴に気づかせたい。 ○理科で扱う「色・形・大きさ」の観点に着目させることで，合科的指導も可能である。 ○4月に学習した「発見ノート」を参考にさせてもよい。なお「発見ノート」は，このあと下巻の創作詩の教材『はっとしたことを詩に書こう』や，同じく下巻第五単元『強く心にのこっていることを』の話題・題材選びでも活用することができる。少しずつでも書かせていくようにしたい。 ○調べてわかったことをメモしたり，文章を引用したりした場合は，書名・筆者名などの必要な情報を奥付で確認し，必ず記録させる。 ○一つ一つの生き物ごとに，調べたことをメモさせる。 ○メモには，日付と生き物の名前を書いてから，調べた特徴を書き，最後に調べた本を書かせる。 ○組み立て表には，「調べたきっかけ」「調べたこと」「まとめ」「調べた本」のような項目を立てて書く。 ○内容として足りないと思う点や不必要な点などを伝え合って，修正させる。 ○p.77の下段の「よこ書きの文の書き方」を説明文と比べながら確認する。 ○横書きのきまりに慣れない児童が多いので，机間指導において適宜支援する。 ○内容のまとまりごとに段落を作って書くことができているかを，必ず確認させる。 ○よく書けている点について感想を伝えるとよい。比べている内容のわかりやすさや，記述の工夫などに着目させる。	◎【知技】主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） ◎【思判表】「書くこと」において，書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂイ） 【態度】粘り強く文章の構成を考え，学習の見通しをもって説明する文章を書こうとしている。	説明する文章を書く	説明する文章を書く／漢字／メモ／組み立て表／題名／意見／出典／図／文章／資料／横書きの文／読み返す／説明する／段落／理由／例／点（、）／コンマ（，）

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
7	2	漢字の広場　② 漢字の音と訓	△漢字の音と訓について理解する。 △漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒知技(1)ウ △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．p.78の上段の設問を読み，「先」という字の読み方の違いを考える。 ２．漢字には，音と訓の読み方があることを知り，その違いを比べる。 ３．p.79上段の設問を読み，音と訓のどちらが使われているかを話し合う。 ４．p.146の「漢字を学ぼう」の表を使って，これまでに学んだ漢字の音と訓を確かめる。	○漢字の音と訓について知り，漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確かめ，今後の学習に生かしていくよう意識づける。 ○「先」に二通りの読み方があることを確認する。 「セン」の語例（先日，先月，先頭など） 「さき」の語例（行き先，つとめ先，あと先，先まわり，まっ先など） ○漢字には「いろいろな読み方」があるというこれまで蓄えてきた知識を，「音」「訓」をもとに再整理し，漢字についての興味・関心が増すように取り組む。 ○学習の展開にあたっては，巻末の『漢字を学ぼう』や国語辞典などを活用して調べる活動を取り入れる。 ○児童自らが，音・訓のある漢字や，音か訓だけを用いる漢字の例などを発表できるようにする。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い，学習課題に沿って，漢字の「音」と「訓」について知り，正しく使おうとしている。		音／訓／漢字／文／片仮名／日本語／平仮名／話し合う／言葉／国語辞典
				2	５．「草原」（ソウゲン・くさはら）のように，同じ表記でありながら異なる読みをもつ語のそれぞれの読み方を確かめ，語感の違いを話し合う。 ６．「山野」と「野山」のように，字順が相反する二字の漢字語のそれぞれの読み方を確かめ，語感の違いを話し合う。 ７．「カイジョウ」と読む同音語や，「かえる」と読む異字同訓の，それぞれの意味の違いを話し合い，国語辞典で意味を調べ，確認する。	○「草原」などを使って短文を作り，それを友達が音訓のどちらで読むか，確認する。 ○音で読むときと，訓で読むときの語感の違いを話し合うとともに，国語辞典を利用して調べたそれぞれの意味を発表し合うとよい。 ○「山野」と「野山」などは，普通，音で読むか，訓で読むかを確認する。 ○国語辞典で調べたそれぞれの意味を発表し合うとよい。 ○「会場・開場・海上」や「帰る・返る・代える」などの言葉を使って短文を作り，声に出して読み合うとよい。 ○漢字は，どのような単語の中で使われるか，どういう送り仮名がつくかでそれぞれの読み方が決まってくる。多くの語句や文にふれることをとおして，音訓に気をつけて読むことができるようにする。			
	2 （書く2）	漢字の広場　② 二年生で学んだ漢字　②	△絵を見て想像したことをもとに，２年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ア ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	3・4	８．教科書の絵を見て，描かれている様子について説明する。 ９．「ぼくは，海で姉や妹と遊びました。夜は，星を見ました。」を参考にして絵の中の言葉を使って，絵に描かれている様子を説明する二文以上が続く文を書く。 10．絵の中の言葉を三つ以上使って，二文以上が続く文章を書く。 11．書いた文を見直し，適切な表現に替えたり，まちがいを正したりして，発表し合う。 ○学習を振り返る。	○絵の中にある２年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○絵に描かれたことと，言葉からわかる夏休みの様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ○続きの文を書くために，「そして」「そうすると」「しかし」「けれども」「なぜかというと」などの接続の語を提示するとよい。 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○敬体と常体が混在している場合は，読み直して，どちらかに統一するようはたらきかける。 ○表現を改めたり，書きまちがいなどを正したりして，書いた文を発表する。 ○漢字の音と訓について正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。		漢字／言葉／日記

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
7	9 （書く2）	五　登場人物のせいかくを考えながら読もう	□登場人物の性格を捉えて読み、クラスでもった読みの課題を解決する。						
		のらねこ	△様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。　⇒◎知技(1)オ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。　⇒知技(3)オ ■書こうとすることの中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ □登場人物の行動や気持ちなどについて，叙述を基に捉えること。　⇒◎思判表Ｃ(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)カ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして，相手のことを思いやったり，互いに理解し信頼し合ったりすることについて考える。	1・2	○単元とびらを読んで，学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．物語を読んで登場人物を確かめる。 （1）のらねことリョウの行動やせりふをもとに，気づいたことや考えたことをノートなどにまとめる。 （2）まとめたことをもとに，のらねこの性格について話し合う。また，のらねこをリョウがどのように思っているかを想像して話し合う。	○登場人物の性格を捉えて読み，クラスでもった読みの課題を解決するという単元の見通しをもたせる。 ○登場人物やそれぞれの関係などを確認しておく。	◎【知技】様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の行動や気持ちなどについて，叙述を基に捉えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃイ） ◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃカ） 【態度】進んで登場人物の性格について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し，学習の見通しをもって物語の感想を書こうとしている。	登場人物のせいかくを考えながら読む	文／漢字／様子／物語／言葉／性格／話し合う／気持ち／場面／地の文／登場人物／会話文
				3～6	**考えよう** ２．のらねことリョウの気持ちの移り変わりを捉える。 （1）二人の気持ちがいちばん近づいたのは，どの場面かを考えて話し合う。 （2）のらねこと，リョウの家のねこの違いを考えて紹介し合う。以下のような課題をもとに考えるとよい。 ①なぜ，のらねこはあんなにうたぐり深いのだろう。 ②りょうになでられたのらねこは，何を考えていたのだろう。	○のらねこの言動には，独特のものがある。それは，これまでの生活体験と，そこで培われた性格の表れでもある。 ○「ここが大事」に，「登場人物の考え方や思いがそのままれている会話文や，地の文の中の登場人物の様子や表情・行動を想像することで，性格がわかってきます。」とある。のらねこの特徴的な言葉や行動をもとに性格を考えるようにする。ただし，「○○な性格」などと，一つにくくる必要はない。話し合いをとおして，のらねこのさまざまな特徴的な姿が考えられればよい。 ※「物語の想像」のためのポイント（のらねこの言葉づかいや行動・態度などに着目させる。） (1)に関しては，リョウとのらねこのせりふや行動から，気持ちを想像させ，二人の心の距離を考えさせるようにする。 (2)は，リョウの家のねこのせりふを手がかりにすると，のらねことの違いがはっきりしてくる。			
				7	**深めよう** ３．リョウとかいねこの様子を，のらねこは屋根の上からどのような気持ちで見ていると思うか，想像したことをもとに話し合う。 ①リョウに対してどのような気持ちになっているか。 ②かいねこに対してどのような気持ちをもっているか。	○大きく分けて，かいねこに対する思いは二つに分けられる。うらやましいと思うか，自分は自分と思うか。それまでの学習をもとにして，各自で考えさせるとよい。			
				8・9	**広げよう** ４．『のらねこ』を読んだ感想をノートに書き，読み合う。 ・最初に読んだときの感想や疑問と，今の時点での感想の違いを書く。 ○学習を振り返る。	○学習のてびきの下段にある，子どもの言葉を参考にする。「はじめは～と思ったけれど，詳しく読むと…」というような書き方を，書き方の一つの例として示すことができる。また，感想を書き終えた後に仲間と交流し，同じ場面やせりふを取り上げても，そこでの感じ方が人によって異なることに気づかせる。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
7	1 （書く1）	きせつの言葉を集めよう	△俳句には「季語」が読み込まれていることや，「歳時記」の存在を踏まえ，春夏秋冬や新年に関するそれぞれの季語を集める。 △易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして，言葉の響きやリズムに親しむこと。　⇒知技(3)ア △長い間使われてきたことわざや慣用句，故事成語などの意味を知り，使うこと。　⇒◎知技(3)イ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ア ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア	1	１．教科書に例示した俳句の中にある「季語」を指摘し，声に出して読む。 ２．「歳時記」などから，季節に関する言葉を集めてノートに書く。	○季語を確認させ，「歳時記」について知らせる。 ○「歳時記」などから，季節を表す言葉を集めさせる。 ○それぞれの「きせつの言葉ノート」などに集成しておいて，自分の「歳時記」を作ることに発展させることも考えられる。	◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用句，故事成語などの意味を知り，使っている。（〔知識及び技能〕(3)イ） 【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） 【態度】積極的に，長い間使われてきた季節を表す言葉の意味を知り，学習課題に沿って季節の言葉を集めようとしている。		季節の言葉／季語／言葉
9	1 （話す聞く1）	よく見て，話し合おう	◇写真をよく見て気づいたことを、互いの意見の共通点や相違点に着目しながらグループで話し合う。 △言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。　⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒知技(1)イ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手を意識して，話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら，話の構成を考えること。　⇒思判表Ａ(1)イ ◇話の中心が伝わるように，場面を意識して言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。⇒思判表Ａ(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えを持つこと。　⇒思判表Ａ(1)エ ◇目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめること。　⇒◎思判表Ａ(1)オ ◇互いの考えを伝えるなどして，グループや学級全体で話し合う活動。　⇒思判表Ａ(2)ウ	1	○写真を見て気づいたことや考えたことを話し合うという学習の見通しをもつ。 １．グループで話し合う写真を選ぶ。 ２．写真をよく見て，気づいたことをメモに書く。 （1）写真を見る視点をもつ。 （2）自分の経験を思い出したり，読んだことのある物語と結びつけたりして，イメージを広げて感じ取ったことを書く。 ３．メモをもとに，話し合う。 （1）イメージしたことを順番に出し合う。 （2）写真の題名やキャッチフレーズを考える。 （3）話し合った内容を発表し合う。 ○学習を振り返る。	○五感を使って感じられる写真を準備して，イメージを広げられるようにする。 ○写真を見る視点を共有する。「色からどんなイメージをもつか」「どんな音が聞こえてくるか」「どんな人や物や事柄が周りにあると感じるか」「触った感じや手触りはどうか」「どんな匂いがするか」 ○イメージを出し合い，共通点や相違点に気づかせる。それから，写真の「季節・時間・場所」をイメージを手がかりにして話し合う。ストーリーを作ってもよい。 ○共通点から写真の題名やキャッチフレーズを決めるようにする。	◎【知技】言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａオ） 【態度】進んで目的や進め方を確認し，学習の見通しをもってグループで話し合おうとしている。		話し合う／メモ

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
9	16 （話す聞く2，書く14）	六　つたえたいことをはっきりさせて書こう	■◇取材を通してわかったことを，伝えたいことを明確にして報告文にまとめ，感謝やお誘いの手紙を添えて送る。						
9	10 （話す聞く2，書く8）	取材して知らせよう インタビューをしよう	■◇取材メモを上手に使って，組み立てを考えながら調べたことを文章にまとめる。 △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒知技(1)カ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒◎知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えを持つこと。　⇒◎思判表Ａ(1)エ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒◎思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。　⇒思判表Ｂ(1)エ ■感想や意見を伝え合い，書こうとしたことが明確になっているかなどについて，文章の内容や表現のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ ◇質問するなどして情報を集めたり，それらを発表したりする活動。　⇒思判表Ａ(2)イ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア ☆社会科：校外学習での報告文の作成に役立つ。	1 2～4 5・6 7～9 10	○「学習の進め方」を読んで，見通しをもつ。 **決めよう・集めよう** １．知りたいことをまとめて，「取材メモ」を作り，調べる。 （1）「取材メモ」の作り方とメモの例を読み，取材のときに注意することなどを出し合う。 （2）p.106・107の阿部さんの例文を欄外の注とともに読み，気づいたことなどを出し合う。 （3）インタビューの仕方を理解し，計画を立てる。 （4）計画をもとに，見学に行き，インタビューする。 （5）見学して，わかったことをメモする。 **組み立てよう（重点）** ２．「取材メモ」の中から，書く内容を選ぶ。 ※「取材メモ」の中から，いちばん伝えたいことを中心に選び出す。 ○「取材メモ」をもとにし，文章の構成を考える。 **書こう（重点）** ３．報告文を書く。 **読み返そう** ４．報告文を読み返す。 ○書き上げた報告文を読み返して，必要なところは書き直して清書する。 **伝え合おう** ５．友達と読み合う。 ○取材や「取材メモ」の書き方を振り返り，他教科の学習（例えば社会科や総合的な学習の時間など）にも生かしていく。	○見学しながらインタビューをして調べ学習を進めることを確認する。 ○クラスで冊子にまとたり，発表会を行ったりするなど，単元末の活動の見通しをもたせる。 ○「取材メモ」が，〔調べたいこと〕〔しつもんしたいこと〕〔思ったこと〕に分かれていることに気づかせ，その意義を捉える。 ○誰に，どのようなことをきくのかを想定させる。 ○役割分担をどのようにするのかを決める。 ○二人組あるいはグループでインタビューの練習をさせる。 ○相手に失礼のないように，挨拶や言葉づかいに気をつけさせる。 ○箇条書きで，一つ一つの事柄を短く整理して書き並べていくことを意識させる。 ○書く前にいま一度教科書を読み，留意点を確認させる。 ○教科書の例を参考に，見出しも考えさせる。 ○読み返す時，教科書にある三つの観点を一つずつおさえ，必要に応じて修正させる。 ○下書きが終わった者どうしで相互に読み合わせ，よい点や書き直すべき点を伝え合う場を設定する。 ○クラスにふさわしい方法で読み合う。 ＊文集にして読む。 ＊発表会を行う。 ○学校外で取材した場合は，お礼も兼ねて報告文を届ける。	◎【知技】丁寧な言葉を使っているとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書いている。（〔知識及び技能〕(1)キ） ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） 【思判表】「話すこと・聞くこと」において，必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａエ） ◎【思判表】「書くこと」において，書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂイ） ◎【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】粘り強く，書く内容の中心を明確にして文章の構成を考え，学習の見通しをもって報告文を書こうとしている。	取材したことをまとめる	取材メモ／取材する／取材／インタビュー／手紙／資料／箇条書き／様子／質問／報告文／見出し／理由／文章／段落／読み返す／句点／句読点／読点／会話文／組み立て／電話／言葉づかい／自己紹介／メモ／漢字／言葉

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
9	6 （書く6）	手紙を書いてつたえよう	■手紙の書き方を知り，目的に合わせた手紙を書く。 △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒◎知技(1)キ ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。　⇒◎思判表Ｂ(1)エ ■行事の案内やお礼の文章を書くなど，伝えたいことを手紙に書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)イ ☆社会科・総合的な学習の時間：依頼状やお礼状を書く際に活用できる。	11 12 13 14 15 16	○教材の学習の進め方を理解して見通しをもち，手紙を書くことに興味をもつ。 **決めよう・集めよう** ６．p. 110・111の阿部さんの手紙を読んで，お礼の手紙の書き方や書くときの工夫について考える。 ７．誰にどのようにお礼を伝えるのかを考えながら，手紙に書く事柄を決める。 **組み立てよう** ８．お礼の手紙の構成を考える。 **書こう・読み返そう（重点）** ９．手紙・封筒の書き方を知り，相手や目的に応じた手紙を書く。まちがいがないか読み直す。 **伝え合おう** 10．下書き（清書）を読み合い，書き手の気持ちが伝わる文章になっているかを確かめる。 ○学習を振り返り，手紙のよさについて話し合う。	○阿部さんの手紙を読みながら，お礼の手紙の構成を板書で確認する。 ○p. 110・111の下段の注記と対比しながら，構成を確認する。 ○社会科の学習や総合的な学習の時間の活動など，クラスの実態に合わせて，相手や目的を設定するとよい。 ○巻末付録「よこ書きの手紙の書き方」についてもあわせて参照し，目的に応じた手紙の書き方を知る。 ○季節の言葉は，「手紙の書き方」などの類書から，教師のほうで児童の実態に合ったものをいくつか用意しておく。 ○封筒の書き方は，p. 111の注記と対比しながら，大事なことを確認する。 ○時間的な余裕があれば，何について誰に対して案内をするのかを考えて，案内の手紙を書かせたい。	◎【知技】丁寧な言葉を使っているとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書いている。（〔知識及び技能〕(1)キ） ◎【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「書くこと」において，間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂエ） 【態度】粘り強く相手や目的を意識した表現になっているかを確かめ，学習の見通しをもって目的に合わせた手紙を書こうとしている。	季節の言葉／気持ち／伝える／自己紹介／手紙／言葉／報告文／結びの挨拶／後付け／日付／話し合う	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
9	2	漢字の広場　③ 送りがな	△送り仮名は，漢字の読みや意味をはっきりさせるはたらきをもつことを理解し，漢字を正しく使う。 △漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒◎知技(1)ウ △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒知技(1)エ △様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．「強まる」「強める」を含む文を読み比べ，送り仮名の役割について考える。 ２．p.112の下段の例示の言葉をいくつか使って短文を作り，友達と読み合い，適切に送り仮名を書いているかを確かめ合う。 ３．教科書に示されているほかにも，「動きを表す言葉」や「様子を表す言葉」を探し出し，発表し合う。	○送り仮名について理解するという学習課題を確かめ，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○「送りがな」という語を再確認し，その意味，役割を理解できるようにする。 ○読み方をわかりやすくするために，どんな表記が望ましいかを比べてみる。 ○「歩く」や「高い」などの語例をもとに，送り仮名の意味と役割を明確に理解できるようにする。	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに，句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】進んで送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使い，学習課題に沿って，漢字を正しく使おうとしている。		送り仮名／様子を表す言葉／言葉／文／読み方／仮名／漢字／話し合う／手紙
				2	４．p.113の上段の「書く」「読む」の（　）に送り仮名を書き，気づいたことを話し合う。 ５．「だす・でる」「きる・つく」「けす・きえる」を，送り仮名に注意して漢字で書く。 ６．「育」のように，同じ漢字でも送り仮名によって，読み方や意味の違いを使い分けていることを知り，正しく読む。 ７．送り仮名によって，読み方が変わる漢字を集め，それらを使った短文を書き，発表する。	○ここでは，語形が変化することの法則性にある程度気づかせるようにしておく。「書く」「読む」など五段活用の動詞の場合，五十音表の五段にそって語形が変化する点をおさえたい。 ○「出す・出る」「着る・着く」「消す・消える」などは，助詞に着目し，動詞とつなげて考えることもできる。 ○「重いー重ねるー重なる」「苦しいー苦い」など，それぞれの意味の違いについては，前後の言葉と合わせて考えるようにしたい。 ○活用のある動詞から名詞に転じた「光」「話」などは，例外的に送り仮名をつけないことを経験的に理解できるようにする。 ○巻末『漢字を学ぼう』（p.154～158）などを使って，同じような漢字を探させてみるとよい。 （例）「上」「下」「交」「細」「直」「通」など ○ほかにも「行くー行う」「細かいー細い」など，巻末『漢字を学ぼう』から探すことができる。 ○いろいろな送り仮名を読むことをとおして，送り仮名についての理解を深め，正しく使い分けられるようにする。			
	2 （書く2）	漢字の広場　③ 二年生で学んだ漢字　③	△絵を見て想像したことをもとに，２年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	3・4	８．教科書の絵を見て，描かれている様子について説明する。 ９．「元気に走り回ってみようと思います。」を参考にして，外でやりたいことを文に書く。 10．外でやりたいことについて，絵の中の言葉を三つ以上使い，二文以上が続く文章を書く。 11．書いた文を見直し，適切な表現に替えたり，まちがいを正したりして，発表し合う。 ○学習を振り返る。	○絵の中にある２年生の時に学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○絵に描かれたことと，言葉からわかる秋の野外の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○自分がやりたいことが，はっきりわかるよう書き表し方を工夫するようはたらきかける。 ○続きの文を書くために，「そうして」「そうすると」「けれども」「なぜかというと」「そのわけは」などの接続の語を提示するとよい。 ○敬体と常体が混在している場合は，読み直して，どちらかに統一するなど書き表し方を工夫するようはたらきかける。 ○表現を改めたり，書きまちがいなどを正したりして，書いた文を発表する。 ○送り仮名について正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。		漢字／言葉

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
9〜10	9 （書く2）	七　場面のうつりかわりに気をつけて読もう	□場面の移り変わりや登場人物の行動，気持ちの変化などについて，叙述をもとに捉える。						
		わすれられないおくりもの	△主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。　⇒知技(3)オ ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ □登場人物の行動や気持ちなどについて，叙述を基に捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えを持つこと。　⇒思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒思判表Ｃ(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合っ たりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして，友達と互いに理解し，信頼し，助け合うことについての考え方を深める。	1〜3 4・5 6・7 8・9	○単元とびらを読んで，学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １． （1）題名からどのようなことを考えたか，自由に想像し自分の考えを発表するとともに，全文を読んで初発の感想を書く。 （2）森の動物たちの，あなぐまとの思い出を表に整理して発表する。 **考えよう** ２． （1）あなぐまは，どのような気持ちで森の動物たちにいろいろなことを教えていたのかを想像する。 （2）あなぐまが死んでしまった場面と，物語の終わりの場面で，もぐらの気持ちがどのように変化したか，比べて考えを話し合う。 ※4・5時のどこかで適宜「言葉」の学習を行う。 **深めよう** ３． （1）他の動物たちは，あなぐまにどのようなお礼の言葉を言ったと思うか。森の動物たちにとって，「わすれられないおくりもの」とはどのようなものだといえるか，話し合う。 **広げよう** ４． （1）もぐらは，「ありがとう，あなぐまさん。」のせりふの後に，どのような言葉を続けたと思うか想像する。 （2）他の動物たちの，あなぐまに対するお礼の言葉を想像してノートなどに書き，読み合う。 ○学習を振り返る。	○場面の移り変わりに気をつけて読み，題名の「わすれられないおくりもの」とはどのようなものなのかを考えようという単元の見通しをもたせる。 ○物語の前半部分に，あなぐまの心が語られている。その叙述をもとに，あなぐまの思いを想像する。 ○あなぐまが死んでしまって，もぐらは，毛布をぐっしょり濡らすほど涙を流している。それに対して，物語の最後の場面では，「ありがとう，あなぐまさん」と，呼びかける姿に変わっている。もぐらはどのような気持ちに変化したのか，なぜそのように変化したのかを話し合うようにする。 ○「あなぐまがのこしてくれたもののゆたかさで，みんなの悲しみも，消えていきました」という叙述などをヒントに，「あなぐまがのこしてくれたもの」とは何か，そのおかげで，森の動物たちは何が変わったのかを考えさせる。 ※「物語の紹介」のためのポイント ○「３　ふかめよう」を受けて，もぐらが，あなぐまから受け取ったものを考え，お礼の言葉を想像する。また，他の動物たちが，あなぐまからそれぞれどのようなことを教えてもらったのかを確認して，お礼の言葉を考えさせる。 ○個々の動物たちの言葉を考えるだけではなく，森の動物たちみんなに対する「わすれられないおくりもの」とは何だったのかを考える。 ○物語の内容と題名は深く関わっていることをノートなどに書くようにする。 ○「ここが大事」の内容について，題名のもつ意味を捉える。また，今までに学習してきた物語には，どのような題名がついていたかを振り返り，題名のつけ方について，種類分けしながら整理する。	◎【知技】主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） 【態度】進んで登場人物の気持ちの変化について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し，学習の見通しをもって，登場人物の言葉を考えようとしている。	題名について考える	文／訳／漢字／気持ち／手紙／題名／発表する／物語／様子／話し合う／場面／言葉／登場人物

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
10	4	ローマ字	△ローマ字に興味をもち，ローマ字の書き方について理解し，ローマ字に親しみをもち，読めるようにする。 △漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒◎知技(1)ウ	1〜3	○学習内容を理解し，日常化への見通しをもつ。 １．日本語はローマ字でも表記できることを知り，母音と子音の意味を理解して，ローマ字で書かれた簡単な言葉を読む。 ２．「のばす音」「はねる音・つまる音」などの特殊な書き方について理解し，読めるようにする。 ３．大文字・小文字で書くときのきまりを理解する。 ４．ローマ字の書き方の違うものがあることを知る。	○教材冒頭の会話文によって，日常の言語生活との関連を意識づける。 ○身のまわりで使われているローマ字を探し，ローマ字で書かれたものを発表させる。最近では，英語での表記もあるので，混同しないように，発表の際には教師が気を配るようにする。英語との混同を避けるためには，ローマ字は，日本語の発音をアルファベット表記したものであることをきちんとおさえさせる。 ○教科書に示されたローマ字を読み，ローマ字の表を使いながら自分で読めるように支援する。 ○「のばす音」「はねる音」「つまる音」の書き方を確認させ，読めるように指導する。	◎【知技】日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書いている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】進んで，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で読んだり書いたりし，学習の見通しをもって，ローマ字に親しもうとしている。		のばす音／大文字／小文字／ローマ字／日本語／言葉
				4	５．自分の身のまわりにあるローマ字に目を向け，ローマ字を集めるなどして，意識する。 ○学習を振り返る。	○身のまわりにあるローマ字で，書き方が一つだけということはあまりないので，柔軟さをもたせられるとよい。 ○読み書きの基本を理解させ，自分の興味のある言葉が書けるとより興味をもたせることができるので，支援したい。 ○五十音を全て暗記してからというのでは負担がかかるので，ローマ字の表記の仕組みを理解させ，探しながら書くなど慣れるようにしていくことがよい。			
10	1	ローマ字とコンピューター	△コンピューターにローマ字で入力をする際に大切なことを知り，コンピューターを活用する。 △漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒◎知技(1)ウ	1	○学習内容を理解し，日常化への見通しをもつ。 １．p. 137を読み，コンピューターに入力する際にはローマ字で打ち込む必要があるが，文字変換の際の文字の選択・決定は人が決める必要があることを理解する。 ２．入力の際に気をつけなければならない字について理解し，正しく打ち込めるようにする。 ３．実際にいろいろな言葉を入力をして，ローマ字の綴り方の確認をする。 ○学習を振り返る。	○日常生活におけるローマ字入力の機会や場面について話し合い，ローマ字とローマ字入力について意識づける。 ○コンピューターに入力する際，文字の変換や語句選びなどには，人が関わり，人が決めることを理解させたい。機械任せではないことに気づかせる。 ○ただし，ローマ字を打ち込む技術が必要であり，覚えて使いこなすことの必要性を感じさせたい。 ○p. 134のローマ字表を想起させ，ローマ字の規則性を確かめさせる。そのうえで，違う書き表し方をする文字に注意するよう促す。 ○身のまわりのさまざまな言葉を入力させ，ローマ字入力の仕方に慣れさせる。 ○文字変換の方法にも慣れさせるとともに，正しい漢字や語句の選定は自分で行わなければならないことを理解させる。	◎【知技】日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書いている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】進んで，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で読んだり書いたりし，学習の見通しをもってコンピューターにローマ字で入力しようとしている。		のばす音／片仮名／言葉／ローマ字／平仮名／漢字